

CATCH・キャッチ(非営利連合)

お話：イブさん

レポート：太田明日香

★概要

CATCHはCommunity Action Toward Children's Healthの略で、地域の健全な子育てを支援する活動を行っている連合です。CATCHが目指すのは、子育てに優しいコミュニティづくりです。主な活動内容には地域の子育て環境の把握、子育て世帯と地域をつなぐサポート、地域住民・関係各所向けのフォーラムの開催などがあります。子どもを育てる最良の環境とは？安全で安心できる子育てを実現するには？そういった問題提起をおこない、様々な情報を地域に向けて発信しています。

また、子育ては子育てをしている親や養育者だけの問題ではない！子どもたちのために自らの声を地域にとどけよう！という啓蒙活動も行っています。It takes a community to raise a child. というスローガンは“1人の子どもを育てるにはコミュニティ全体が必要”という意味です。

Ministry of Children and Family Development (MCFD)は“0~6歳児の発達”をサポートする為、“Early Childhood Development”というカテゴリーのもとに、子ども・親・養育者に対するプログラムとサービス、そして活動の提供を統括しています。その一つに“Children First”(チルドレン・ファースト)というプログラムがあります。

このプログラム自体が*EYCD (Early Years Community Development Instituteの略)に会員として所属することにより、それぞれのコミュニティにおける子育てプログラムやサービスが現行の子育てのニー



ズに対応できているか、また、改善すべきところは何か等をオンタイムで明確に把握し、ひいてはBC州全域でより質の高い子育て支援の実現を可能にすることを目的としています。EYCDの会員はBC州内全域の各コミュニティに存在しており、CATCH(キャッチ)もEYCDの会員です。

*EYCD — BC州における子育て支援関連団体のネットワーク強化の筆頭に立つ協会

★活動内容

主な活動は地域の子育て環境の把握、子育て世帯と地域をつなぐサポート、地域住民や関係各所向けのフォーラムの開催という3つの内容です。子育て世帯の方々に、どのようなサービスがあるのか知ってもらうためのサポートの役割をされています。フォーラムの開催については、ゲストスピーカーを呼び、コミュニティのトピックスに応じて、地域の方から声が上がったらレクチャーやスピーカーを呼びます。CATCHから1名を呼ぶのではなく、他の団体と一

緒に呼び、フォーラムの開催を行っています。

そのような機会を通して、みんなでいろいろな立場から、大きなものを見ていこうというところから CATCH の活動が始まりました。今冬は、ニューヨークからスピーカーの方を呼び、“親の不安に対して、子を放手するときの親の不安”について話してもらったそうです。皆が子どもや地域の現状を理解するための、役割をされました。

★ファミリーセンターハブ

2016年6月に開設した、現在顕著に変化している機関です。大学とボランティアワークをしたり、医療に関するサポート、小児科医やメディカルサポートについての情報提供を行ったり、地域のパートナーからもプログラムの情報提供などを行ったりします。開設にあたって色々なパートナーにお世話になったそうです。

★5領域マップ

日本の幼児教育要領にある5領域(①健康②人間関係③環境④言葉⑤表現)と同様、カナダにもある5領域(①心身の成長と健康②社会性③精神面の成熟④言語理解と発達⑤コミュニケーションスキルと知識)を地域ごとに地図化したものです。各地域の子どもたちが、それぞれの領域をどのくらいのレベル満たしているのか、また、足りていないところを分析するためのマップです。このように見える化し、他のパートナーともサイトを通してシェアをすることでより一層

活動が円滑に実行されていきます。

★子育て現状

カナダも日本と同様、待機児童問題が深刻で、約6万人もの待機児童がいます。また72%もの方が共働きです。税金が多く取られる分、教育にお金が掛かります。バンクーバーオリンピック後の価格高騰し、バンクーバーなどからケロウナに移り住む人も少なくありません。

このような状況のなかで CATCH は活動しています。

★感想

子育てと地域とのつながりをサポートする体制が手厚く、また親や養育者に対するプログラムやサービスも年々質の高い子育て支援の実現をされていました。そのような活動を実現し、継続させていくためには現状に合った目的、目標が明確であることが強みだと感じました。他の機関や他の地域との横との関わり、子どもたちとのつながりを大切にしているからこそ実行が可能になっているのだと考えます。

